

洋上風力関係船舶確保のあり方に関する検討会

第3回 検討会資料

洋上風力関係船舶の確保に向けた課題の把握
及び必要な取組みの整理

令和8年1月28日

商船三井マリテックス株式会社

目 次

1 洋上風力関係船舶の確保に向けた課題の把握及び必要な取組みの整理.....	1
1.1 国内サプライチェーン調査に係る課題.....	1
1.2 国内サプライチェーンに係る必要な取組み（案）.....	2

1 洋上風力関係船舶の確保に向けた課題の把握及び必要な取組みの整理

国内サプライチェーンの調査結果を基に、洋上風力関係船舶の確保に向けた課題及び必要な取組みについて整理した。

1.1 国内サプライチェーン調査に係る課題

我が国船用事業者に対して、AHTS及びSOVに必要となる専用機器・設備の現時点での取扱い有無を調査するとともにし、取扱いがある場合はその装置名、取扱いがない場合は将来的な取扱いに関する課題及び見通しについて整理した。

(1) AHTSの船用機器に関する課題

① 現時点での対応状況

- 多くの主要機器は国内サプライチェーンで対応可能である。
- 一部機器（操舵機、Shark Jaws & Towing pin）は現状対応不可または将来的な対応の可能性がある。

② 将来的な課題

ア) ロータリーベーン（操舵機）

現状は海外メーカー採用が必要である。また、国内メーカーでの対応や、ピストンタイプ等への仕様変更検討の必要がある。

イ) Shark Jaws & Towing pin（甲板機械）

現時点では国内製造実績が無いが、仕様の検討次第で将来的な国内製造の可能性はある。

ウ) 仕様詳細の調整

一部機器については定格回転数や定格電圧等の仕様詳細の調整が必要である。

(2) SOVの船用機器に関する課題

① 現時点での対応状況

- 推進器（主推進器、位置保持用昇降式スラスト、トンネルスラスト、DP2）、主機・補機（主発電機、エネルギー貯蔵システム（ESS））、その他の機器については国内対応が可能である。
- 動揺吸収型クレーン（荷役機器）は仕様によっては、欧州パートナーとの共同対応が必要である。
- 動揺吸収型ギャングウェイ（荷役機器）は、海外メーカーを採用する必要がある。

② 将来的な課題

ア) 動揺吸収型クレーン

仕様によっては国内単独対応が難しく、欧州メーカーとの連携が必要であるため、国内技術開発や共同開発体制の構築が課題である。

イ) 動揺吸収型ギヤングウェイ

現状は海外メーカーの採用が必要であるため、国内メーカーによる技術開発が求められる。

ウ) 仕様協議の必要性

空調設備など一部機器は仕様の協議が必要であり、具体的なプロジェクトに即して仕様が明確化される必要がある。

(3) 国内サプライチェーンに係る課題

基本設計した SOV と AHTS に搭載する艀装品について国内の取り扱いを調べ、国内で取り扱いがないものがあることが明らかになった。

国内に製造技術が存在しない場合、需給が逼迫すると、材料やパーツの調達が困難になるおそれがある。そのため、これらの艀装品のサプライチェーン構築に当たってボトルネックの把握等の更なる調査が必要である。

1.2 国内サプライチェーンに係る必要な取り組み（案）

今後は、造船所や舶用事業者に対してアンケート調査等を行い、需給逼迫時に調達が困難となり、洋上風力関連船舶の建造・運航に悪影響を及ぼす可能性のある艀装品を特定した上で、調達困難となる要因、その影響度と発生しやすさ、想定される解消方法とその難易度、代替品の国内調達の可否について調査することが有効と考えられる。

